《２０１４年１月　月例会報告》

【日　時】2014 年 1 月 26 日（日）18：30～20：30（その後「ルン」～）
【会　場】筑波大学附属高校 3F 会議室（東京都文京区大塚 1-9-1）
【テーマ】FC バルセロナ憲章に見るバルサの本当のすごさ
【演　者】小池正通（(株)La Esperanza）
【参加者（会員）16 名】今廣佳郎（有限会社 JLA ASIA）、牛木素吉郎（ビバ！サッカー）、奥崎覚（株式会社コリー）、角脇拓也（東京都サッカー協会）、金子正彦（会社員）、岸卓巨（中央大学大学院）、小池正通（(株）La Esperanza）、小池靖（浦和文蔵サッカースポーツ少年団）、笹原勉（日揮）、白髭隆幸（国際スポーツプレス協会）、田中俊也（三日市整形外科）、谷口昭彦（静岡産業大学）、田村修一（フットボールアナリスト）、名方幸彦（NPO 法人文京教育トラスト）、中塚義実（筑波大学附属高校）、野口良治（東京都サッカー協会）
【参加者（未会員）2 名】★上手孝幸（東京都サッカー協会フットサル委員会第 2 種部会）、斉藤宣彰（有限会社 JLA ASIA）
【ルンからの参加者】竹中茂雄
注１）★は初参加のため参加費無料
注２）参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません。
【報告書作成者】小池正通

＊＊

FC バルセロナ憲章に見るバルサのほんとうのすごさ

小池正通（(株)La Esperanza）

＊＊

＜目次＞

Ⅰ．プレゼンテーション
１．FC バルセロナ会長のサンドロ・ロセイが辞任！
２．バルサ憲章より－そもそも FC バルセロナとは？
３．バルサ憲章より－会員の権利
４．バルサ憲章より－総会
５．バルサ憲章より－理事会
６．カンプノウの改修をめぐって
７．FC バルセロナからの温かいメッセージ－東日本大震災に寄せて
Ⅱ．ディスカッション

＜自己紹介＞

参加者：各自、簡単な自己紹介（略）

田村：私から一言だけ。バルサの会長を辞めたサンドロ・ロセイという人は、カタールゲート（注：フランスフットボール誌が 2013 年 1 月から継続的に展開している 2020 年 FIFA ワールドカップのカタール開催決定を主軸にした一連の不正疑惑キャンペーン）の主要な登場人物の一人であって、ティシェイラ（注：前ブラジルサッカー連盟会長）との関係を取りざたされている人で、その辺の関係も聞きたいと思います。

Ⅰ．プレゼンテーション

１．FC バルセロナ会長のサンドロ・ロセイが辞任！

本日は「FC バルセロナ憲章に見るバルサの本当のすごさ」というテーマでお話をさせて頂きます。入念な準備をしてきたのですが、3 日ほど前にバルサの会長サンドロ・ロセイが辞任するというビッグ・ニュースが飛び込んできた関係で、内容をやや変えて発表させて頂きます。私は育成畑なので、下部組織を中心とした話をしたかったのですが、カンプノウ改修とサンドロ・ロセイという人物は密接な関係がありますので、前会長ラポルタとの確執を交えながらロセイの話をしたいと思います。

カンプノウの改修が 1 月 20 日の理事会で発表され、3 日後の緊急理事会でロセイの辞任が発表されました。突然の発表ではありましたが、現地の人間は「ロセイが辞めるぞ」と薄々気づいていました。私も辞めると思っていました。その理由をご説明します。

これが 1 月 20 日付のエルムンドの記事です。エルムンドはスペイン第 2 位の全国紙。1 位がエルパイスです。ムンドとはスペイン語で「世界」という意味、パイスは「国」という意味です。ともにマドリッド系の新聞です。ちなみに第 3 位がヴァンガーディアというバルセロナ系の全国紙で、クライフが寄稿している新聞です。

EL MUNDO　2014 年 1 月 20 日付

Rosell pagó 95 millones por el jugador Neymar y no los 57 que dijo　La Audiencia descubre una prima de fichaje de 10 millones y comisiones por 11 Los pagos millonarios a la familia de Neymar son para buscar 'promesas del Santos' También están destinados a captar 'publicidad de empresas' y ayudar a los niños No figuran cláusulas de obligación para cumplir estos objetivos

Pago というのは pagar（支払う）の過去形で、ロセイはネイマール獲得のために、9,500 万ユーロ、日本円にしておよそ 130 億円支払ったという記事です。ロセイは昨年の総会以来、5,700 万ユーロを払っていると言い続けています。その差が 3,800 万ユーロ。日本円にして、約 50 億円です。バルサは多額の借金を背負っていて、毎年、財政を縮小し、スポンサーを獲得し、借金を返済しています。その金額が日本で約 50 億円です。

記事をさらっと読んでみると、サントスにブラジルの広告会社をダミーに使って、裏金を支払って

いる。記事の背景がよく分からないのですが、ネイマールが作った子どもの慈善財団にも支払っていた。そんな内容の記事をエルムンドにすっぱ抜かれたわけです。ちなみにこのロセイと言う人は、かつて、ナイキの南米部門の営業統括責任者です。ブラジル代表のユニフォームをナイキに変えたのもこの人。バルサとのナイキの契約が 2018 年まであるのですが、その契約を勝ち取ったのもこの人です。バルサに多大な利益をもたらし、バルサの収支が改善の方向に向かっているのもこの人抜きには語れません。ちなみにこの人は、熱狂的なカタルーニャ民族主義者です。カタルーニャ独立のデモに個人としてですが、参加し、また一部のカタルーニャ独立シンパに対して多大な影響力を持っていると言われています。契約はロセイ、サントス、ネイマールの父親との間で交わし、いかにもスペイン人らしいのが、この契約条項は正式なものではないと書かれています。

次のスライドはロセイのバルサ会長としての最後のコメントです。

■過去の栄光にすがり、保身に走るサンドロ・ロセイ（注：小池がつけた標題）
"Close to four years ago, during the Club's 2010 elections, thousands of FC Barcelona members cast their ballots with the excitement of showing who they wanted to take the reins of the Club. That day was unforgettable, it was a democratic festival that reinforced the greatness of our Barça. On that day, 61% of the votes gave the team that I led the charge to direct the destiny of the Club until 2016.
But this period of success has also brought us very difficult moments. For some time my family and myself have suffered threats and attacks in silence. These threats and attacks have made me wonder if being president means having to jeopardise my family.
「しかし、この成功の時代にはまた、困難な瞬間もありました。以前から私と家族は、黙って脅しや攻撃に耐えていました。それが私は会長であるということは家族を危険にさらし、家族を苦しめることになるのではないかと考えたのです。」
→これだけではないでしょ。辞めた理由は？本当のことを言わないといけません。
ラポルタの二の舞になりますよ！ロセイさん。（by　小池）

ロセイは 2010 年の会長選挙で 61%という、過去の選挙の中でも最高の投票率、信任を得て、会長の座に付きました。このコメントは「いかに自分がソシオから信頼されているか」「いかに偉大な業績をなそうとしていたか（カンプノウの改修と財政再建）」を自慢したコメントです。

次のスライドはバルサ憲章第 5 章 51 条の会長の不信任に関する条文です。

バルサ憲章より
Section 5.Vote of no confidence.
Article 51.Vote of no confidence.
51.1. Subjects of a vote of no confidence.
All of the members of the Board of Directors are passive subjects of a vote of no confidence. A vote of no confidence may be requested against all of the Board or some of its members. The Club members that satisfy the conditions to be an elector under terms of article 37 are the active members of a vote of no confidence.
51.2. Petitioners of a vote of no confidence.
The calling of a vote of no confidence can be requested by: the majority of the members of the actual Board, **5 per cent of the Club members** that satisfy the conditions to be an elector as established by article 37, or 50 per cent of the delegates currently in office. **To calculate 5% of the Club membership**, the total number of Club members will be considered to be that existing on the day that the vote of no confidence is announced under the terms established in article 51.3.*a)*.

やっと本題の FC バルセロナ憲章の話になるのですが、バルサ憲章は本来、カタロニア語で書かれています。憲章にも書かれていますが、正式言語はカタロニア語です。ですから本来なら、カタロニア語から注釈すべきでしょうが、私はカタロニア語はさっぱり分かりません。それどころか、私のスペイン語レベルは、2～3 歳です。ですから、英語で憲章を見ていくことをご了承ください。

さて、先ほど触れましたラポルタ前会長は、私の記憶によると、2 回ほど不信任をソシオから突き付けられています。ラポルタという人は若くしてバルサの会長になった人で、アメリカの大統領ジョン・F・ケネディになぞらえて、「バルサのケネディ」とまで言われていた人です。弁護士出身です。

第 2 項では、全ソシオの 5%以上の署名が集まれば、バルサ全ソシオによる、不信任投票が行われるということが書かれています。ラポルタは 1 回目の不信任投票は難なく切り抜けましたが、2 回目は何と有効投票数のうち 60%に当たるソシオがラポルタに不信任を突きつけました。

その説明が次のスライドです。

■過去の不信任投票の事例（前ラポルタ会長時代）
18.06.2008
No confidence vote on July 6 in Camp Nou
www.fcbarcelona.cat
FC Barcelona have announced that the referendum on the vote of no confidence will take place on Sunday, July 6 at Camp Nou.

◇“ヌニェス条項”に救われたラポルタ
投票率 33.15%。39,389 人のソシオが投票。結果は、現役員会に対する不信任案に「賛成（＝ラポルタ不支持）」とした割合が 60.6%。解散のために必要な 66.66%にはわずか（約 2,400 票）に届かず。不信任は否決。（「反対」は 37.75%）。
解散とならない理由は、改定されたクラブ規約にあり。
1998 年 3 月 7 日にクラブ史上初となる不信任投票を実施。（ヌニェス会長時）
大差にて続投を決定。不信任動議を成立しにくくするため、後のソシオ総会にて“3 分の 2 条項”を可決。→ロセイはラポルタ政権末期の悲惨な状態を熟知している。
名誉を守るため（特に新スタジアムの改修の貢献）、会員投票を回避するために、
自ら辞任した。決して、家族の安全のためだけではない。

バルサ憲章の不信任に関する条項の中にいわゆる「3 分の 2 条項」と言われる条項があって、ラポルタはこの条項に救われたのです。ちなみに 2 回目の不信任をラポルタに突きつけたのはマーク・イングラという人物で、ラポルタ政権下の副会長、ロセイの盟友でもあった人です。ロセイは 2 回目の不信任騒動を陰で操っていたと言われています。

民主主義では過半数を超えれば、当然、解任、クビですが、バルサ憲章にある「3 分の 2 条項」によってラポルタは首の皮一枚つながり、最後にはボロボロになりましたが、バルサの会長でいられたのです。歴史の因縁と言いましょうか、この「3 分の 2 条項」を作ったのが、お手元の年表にある通り、1978 年から約 20 年会長職にあったヌニェスという人物です。会長職を 20 年近く務めた名物会長で、バルセロナきっての経済人です。ヌニェスがなぜこの条項を作ったかと言いますと、自分に不信任を突き付けられたからです。突きつけた人物が何を隠そう、このラポルタだったのです。不信任を突きつけられても会長職にとどまることができるようにヌニェスが作った条項ですが、ことの発端の張本人はラポルタの訳です。会長の首を切ろうとしたのがラポルタであり、そのターゲットがヌニェス。首を取りたかった憎きヌニェスによって救われ、歴史はめぐると言いますか、ロセイはラポルタ政権の末期の様子を目の当たりにしていた訳です。ラポルタの首を陰で取ろうとしたロセイが、ラポ

ルタの二の舞になることを回避した。バルサの歴史に名を残す「カンプノウ改修」と引き換えに自分の首を差し出した（＝会長辞任）と私は見ています。ちなみにカンプノウの改修は 50 周年の時、ラポルタ政権下で決定されていたのですが、リーマンショックによって延期となり、ロセイ政権下で白紙に戻されました。そんな経緯があり、カンプノウ改修・新築はロセイの悲願であったのです。

続いて、新会長のバルトメウと言う人がどんな人物かご紹介します。次のスライドをご覧ください。

■バルトメウ新会長の発言　～ロセイ路線を継承～

The future of the Camp Nou will continue to be a priority for this Board of Directors. A lot is at stake with this project – our future for the upcoming decades – and members have the final word when the referendum comes up in April.

■Profile

Josep Maria Bartomeu i Floreta (Barcelona, 6 February 1963) has been an FC Barcelona member since 1974, he's member number 16,836. He’s been part of the Board of Directors since 2010, when the candidacy of Sandro Rosell won in the elections of June 13th, 2010. Since then he’s been first vice-president, responsible for the Athletic Area of the Club.

Bartomeu was also part of FC Barcelona’s Board of Directors from 2003 to 2005 as the director responsible for the basketball team.

Married and father of two, he’s a partner and CEO of the ADELTE Group (port and airport engineering, worldwide leader of boarding and design of large transport vehicles) and EFS, Equipo Facility Services (group of system maintenance and electromechanical equipment businesses).

このバルトメウという人は、2003―05 年にも、ラポルタ政権下で理事でした。このとき、バスケットボール部門のディレクター、責任者であったと書かれています。確か、ラポルタの 1 回目の不信任の時にやめているはずです。この人もロセイと同様、ラポルタの盟友だった人物です。2 回目の理事就任は、ロセイ政権で、副会長。バルサ憲章の規定により、何人かいる副会長の中で席次 1 位の彼がロセイの後を継いだのです。プロフィールによると、この人は海港や空港関連の技術系の仕事を手掛ける会社の社長です。バルサの役員の多くが企業の社長やコンサルティング会社、マネージメント会社のパートナーだったりします。ちなみに、理事は全員無給です。これも憲章に書いてあります。企業の社長クラスの人物でないと、無給で理事など務まりませんよね。恐らく、中で上手くやっているんでしょう。利益誘導、利権が絡んでいるはずです。きっと。

バルトメウという人は、完全なロセイ派ですから、ロセイと同じことを繰り返し言っています。「理事会の最優先事項はカンプノウの改修問題だ。カンプノウの未来は 4 月に行われるリファンダム（全会員投票）に委ねられている。」

２．バルサ憲章より－そもそも FC バルセロナとは？

FCバルセロナ憲章に見るバルサの本当のすごさ

Article 1.nature

FUTBOL CLUB BARCELONA is a private and non-profit making sports Catalan Association of natural persons, with its own legal status, constituted on November 29 of the year 1899.

第1条 性質（FCバルセロナとは）

FCバルセロナは独自の法的地位を持つ、1898年11月29日に設立された自然人（法的資格を持った人々）の集合体である**カタルーニャの民間・非営利スポーツ団体**である。

6

ロセイ辞任にまつわる前段がやっと終了し、ここから本当の本題です。次のスライドをご覧ください。FC バルセロナっていったい何なんですかという条文です。

大切なところは、「カタルーニャの民間・非営利スポーツ団体である」という文言です。スペインの団体ではなく、カタルーニャの団体なんですね。

先ほどご説明した通り、ロセイはバリバリの民族主義者です。カタルーニャの独立を支持し、スペインから独立すべきであるという発言までしています。しかし、スペインリーグの規定では、リーグに参加できるのはスペインのチームだけであって、当然のことながらスペイン（国）のチームでなければ、リーガ・エスパニョーラに参戦できません。リーグ・アンのモナコのようにはいかないんですね。この辺のところを実はロセイはよく分かっていない。分かっていてデモに参加していたとしたら、かなりの確信犯です。

Article 4.Functional area

The aims of the Club are:

Principally, the promotion, practice, diffusion and exhibition of football, as well as basketball, handball, roller hockey, field hockey, ice hockey, figure skating, athletics, basketball for the disabled, baseball, futsal, rugby, volleyball and cycling. Other sports disciplines can be added by agreement of the Board of Directors, which should be ratified by the General Assembly.

Complementarily, the promotion of and participation in social, cultural, artistic, scientific or recreational activities that are relevant and necessary to maintain the representative nature and public projection that the Club enjoys due to its ongoing tradition of loyalty and service to Club members, to the general public and to Catalonia.

第4条 機能領域

クラブの目的は以下の通り、

基本的にサッカー、バスケットボール、ハンドボール、ローラーホッケー、グランド・ホッケー、アイス・ホッケー、フィギュアスケート、体操、身体障害者のバスケットボール、**野球**、フットサル、ラグビー、バレーボール、サイクリングの奨励・実践・普及、試合を行うことである。**他のスポーツ分野も理事の同意、総会での承認を経て追加することができる。**

さらに、社会的・文化的・芸術的・科学的または余暇の活動への奨励と参加はクラブが享受する象徴的な性質や公的な計画を維持するための価値を有し、必要である。クラブの価値を実現するために、クラブ会員、一般市民及び、カタロニアに対する忠誠という伝統と奉仕を維持しなければならない。

7

続いて第 4 章です。これがまた面白いです。

憲章で認められているスポーツの

１つに野球があります。これにはびっくりです。バルセロナ・オリンピックのメイン会場の１つである、モンジュイックの丘にあるスタジアムで開会式・閉会式が行われました。モンジュイックの丘はジョギングに最適なコースで、バルセロナに行くと必ず散歩します。ある日、丘を登っていくと「カキーン、カキーン」という音がする。どこかで聞き覚えのある音。野球のバットの金属音でした。目の前に広がる野球場。日本の野球場と同じように、バックネットやフェンス、観客席まであります。興味が湧いて、野球場まで向かうと、10 歳前後の子供たちがプレーしていました。

ヘルメットにはバルサのエスクードがある。間違いなく FC バルセロナの野球チームでした。しかしこの子供たち、本当に下手なんです。ぽろぽろ球を落とすは、空振りに次ぐ、空振り。昔見たアメリカ映画「がんばれベアーズ」を思い出しました。本当に下手なんです。バルサのカンテラのコーチになるのは難しいけど、野球のコーチなら日本人でもきっとなれます。あれだけ下手なチームなので、「俺でもいけるかな」と、ふと思ったことを今でも覚えています。

さらに第４条を見てみます。この条項の中には「カタロニアに対する忠誠という伝統と奉仕を維持しなければならない」とあります。私はカタルーニャに対して忠誠心は全くありません。

そもそも、私とバルサの関わりは 14 年位前に遡ります。14 年前、初めてバルセロナを訪れたとき、何かよい記念になるものはないかなと探していました。バルサのソシオ・オフィスで見つけたのが、このカード「GENTDEL BARCA」です。日本語で言うと「バルサの人々」とでも言うんでしょうか。当時、5,000 円程度で入会できたと記憶しています。グッズが 10%オフになるくらいで、何のメリットもありません。日本で言う、「読売巨人軍友の会」のようなものでしょうか。

そんなこんなで、「バルサの人々」で 3 年間位いたのです。その後、ラポルタが会長になり、世界戦略の一環として、ソシオを全世界に開放し、募集を開始しました。11 年前の話です。その一報を知った私は居てもたってもいられず、ソシオ入会の代行オフィスが日本にできたのを契機に、晴れてバルサのソシオとなりました。

それから月日が流れ、10 年が経ちました。毎年、バルセロナに行き、チケットは一般価格より 10%位安く手に入りますが、さほどソシオのメリットはない。忘れたころに機関紙が届くくらいです。毎年 2 万 5 千円以上の会費を払い、何らメリットがない。10 年経ち、「もうそろそろソシオを辞めようかな」と考えていた時です。ラポルタの任期が終わり、ロセイが会長に付きました。ある日、バルサから手紙が届きました。ロセイの名で。「お前を代議員（delegate member）に選んだから総会に来い!」。総会の 3 日くらい前です。いくら何でも 3 日前は無理です。しばらくスルーしていたら、この代議員、大変な権限をバルサから与えられているというのが分かりました。私はサロンの法人化プロジェクトのメンバーで、定款についていろいろ調べていました。「少しバルサの定款（憲章）でも調べてみるか」という軽い気持ちでバルサの定款（英訳）を調べてみたんです。そうしたら、びっくり。代議員に関する条文があるではないですか。私の友人でバルサとのビジネスを手掛けている人間がいますが、私の周囲でバルサの代議員になったのはその 1 人だけ。「これはど偉いことになっていたんだな」と、つい最近気づきました。

代議員の資格は今年の 6 月 30 日。残りわずかです。議員の権利を行使せず、総会への出席などの義務も果たさず、任期を終えようとしています。

３．バルサ憲章より－会員の権利

次のスライドは、会員に関する条文です。

10 条 1 項で、私がバルサの代議員になった権利が書かれています。第 2 項では、ソシオが理事になる権利があると明記されています。私も実は理事になれるのかというおバカなことを考えたんですが、結論から言うと、なれません。選挙に関連する条文があり、その中には「カタル―ニャ人しか選挙に出れない」とはっきり書かれています。

バルサの選挙というのは面白い制度で、会長を選ぶのでなく、理事団を選ぶ選挙です。（実質、会長選挙だが）選挙の制度に関しては本日、触れませんが、ソシオ 16 万人が参加する選挙です。16 万人の有権者を抱える、地方自治体の選挙レベル、または大きな選挙区の国会議員を選ぶ選挙と同じレベル、国政選挙並みをお考え頂けると分かり易いと思います。たかが、いちスポーツクラブの会長選挙ですが、候補者の公告のようなものが新聞にも載りますし、いろいろな媒体を使って選挙キャンペーンが繰り広げられます。選挙は 2 年後の 7 月から始まりますが、どんな選挙キャンペーンが行われているか、この目で確かめたいなという気持ちがあります。現理事団の写真がバルサの HP に載っていて、よく見ると技術担当理事の名が中国名です。東洋人の顔した理事が 1 人いる。中国系カタルーニャ人？こんな人、いるのでしょうか？　中国とバルサの関係、何かありそうです。

Article 10.Rights of club Members
Members, whose condition as such will be personal and non-transferable, will have the following rights:

10.1. **To be Delegates**, in accordance with the circumstances and conditions established in article 21.

10.2. To be electors and eligible for **positions on the Board of Directors**, in accordance with what is established in articles 37 and 38, or for positions on any other governing, administrative or advisory body regulated by these Statutes or that is created by the Board of Directors in accordance with applicable regulations.

■第10条 会員の権利
権利は個人に属し、譲渡不能であることが条件のもとで、会員は以下の権利を持つ。

10．1　第21条に明記してある状況・条件に従い、**（総会の）代表となる。**

10．2　有権者となり、第37条及び第38条に従い、**理事会の理事**、運営、経営または顧問機関の役職など本定款で規定されている地位、また、適用できる規則に従い理事会が定める地位に就く資格。

8

さて、代議員の数も憲章に明示されていて、最高 840 名。この 840 名の中には元会長や理事も含まれていて、確かクライフもメンバーです。最高数ですから、現在何名かは分かりません。総会に参加する人数が 650 名くらいなので、最高定員数を満たしてはいないでしょう。100 名から 200 名の、バルサのソシオ歴 30 年以上という方々は固定されたメンバーなので、500 名くらいが代議員に選ばれるのかと推定しています。

なぜ、私が選ばれたのかはよく分かりませんでした。1 つだけ思い当たる節があって、バルサに、サラエボにある FC サラエボ・バルセロナというクラブ（日本にあるような）があるから応援して欲しいというメールを送ったことがあります。約半年後、その FC サラエボ・バルセロナがバルサのホームページに掲載されていました。きっと私がメッセージを送ったからだろうと 1 人にんまりしていましたが、実は違ったんです。代議員の選手方法も憲章に明示されていて、単にコンピューター抽選で選ばれただけです。宝くじに当たったようなものです。私のバルサへの貢献でも何でもなかった、勝手な 1 人妄想です。現在、東欧でもバルサ・キッズキャンプは行われていて、サラエボも会場の 1 つになっています。

10.5. To be informed about any issue that individually affects their condition of being a Club member and their relations with the Club.

10.5. クラブの会員であることの条件や個人（会員）とクラブとの関係に影響する種々の課題について情報を受けることができる。

→サンドロ・ロセイが辞任するなんて、一切、バルサから聞いていません。
（でも辞めるだろうなと、うすうす気づいていました。）

9

なぜサラエボか？　私が送ったメッセージのお蔭だと、懲りもせず、考えています。

次のスライドに移ります。

会員の権利に関する条項ですが、バルサから私の所に来る連絡は早くて 1 週間前、総会の案内は 3 日前、不信任投票は過去 3 回あったと思いますが、そのうちの 1 回は期日を過ぎていたと思います。いくらタイムラグがあるとはいえ、バルサの対応はこんなもんです。ネットの時代ですから、電子投票制度を取り入れて欲しいです。

ロセイが辞めるなんて聞いていませんでしたが、うすうす気づいていました。なぜか？　総会の規定と大きく関わりがあるのです。

次のスライドをご覧下さい。

４．バルサ憲章より－総会

Section 2.GENERAL ASSEMBLY Article 18.nature of the General Assembly

The General Assembly is FC Barcelona's supreme governing body, and its agreements are binding for all Club members and the Board of Directors.

Article 19.competences of the General Assembly

The competences of the General Assembly are:

19.1. To examine the official record or report of the Club's activities for the previous financial year, which should be presented by the Board of Directors.

19.2. To examine and approve the liquidation of the previous financial year, involving closure of books and profit and loss accounts, and any audit or audits that need to be undertaken either voluntarily or compulsorily.

■第18条 総会の性質

総会はFCバルセロナの最高統括機関で、その決定事項にクラブ全会員、および理事会は従わなければならない。

■第19条 総会の機能・権限

19．1　前年度の決算のため、理事会によって提出されるクラブでの正式な記録・活動報告を審議する。

19．2　帳簿を閉め、損益計算書などの前年度の決算報告、任意または義務的な監査報告を審議し、承認する。

19.13. To amend the Club Statutes

19.13. クラブ定款の改正。

10

バルサの総会は、株式会社と同様、最高意思決定機関です。バルサの会長・理事もそれに従わなければなりません。当然です。しかし、昨年来、カンプノウの新築・改修に関してロセイは、「referendum（全会員投票）に懸ける」という発言を繰り返しています。よく憲章を調べてみると、referendum（全会員投票）に関する条項はないのです。ここで、ロセイの思考が推察できます。かれは最高意志決定機関の「総会」よりも 16 万人の会員が参加する「referendum（全会員投票）」により高い価値を置いていて、念願であるカンプノウの新築・改修を全会員の支持を得たと証明するために、referendum（全会員投票）に信を問うのです。主張の「正当性」をより高い次元で担保すると言っても良いかもしれません。

次のスライドでは、総会の様子をお見せします。この総会では、さまざまな議案が出され、採択されます。スライドを見ると、代議員が青の札を上げているのが見て取れます。青は「Ｓｉ（ＹＥＳ）」です。青ばかりです。完全なやらせだと私は思います。私には総会に参加する権利があるので、赤の札「Ｎｏ」を上げてやろうと画策していたのですが、資格が 6 月 30 日に喪失されるので、企みも水泡に帰します。

◆2012-09-22_ASSEMBLEA_GENERAL_ORDINARIA（2012年通常総会）◆

カンプノウのリノベーションに関する、全会員投票を開催するか、否かの決議
89%の代議員が賛成（賛成490名、反対34名、棄権26名）

11

この総会の議案をお見せします。（本報告では省略。興味がある方は下記をご参照下さい）
http://www.fcbarcelona.com/club/detail/article/the-general-assembly-decisions-in-detail）

この報告の中で、バルサのマーケティング部が世界に展開しているエスコーラ（スクール）があります。日本にも福岡にあります。私が関わっていた時には、確かメキシコにもあったはずです。韓国にもあります。今年はインドにもできます。完全な JAPAN ・passing です。かつての副会長フェラン・ソリアーノが、彼の著書の中で「日本はアジア向けのマーケティングの中で、最重要拠点である」と書いていますが、それも遠い昔のこととなりつつあります。日本にもツアーで２回ほど来ていますが、もう来ないのではないでしょうか。

定款の改正も毎年、行われています。ゲームシャツの胸にスポンサーを入れるというバルサの歴史的大転換も、定款の変更を通じて行われました。2009 年の総会です。この歴史的決定を、クライフは「バルサの魂を売った」と、今でも何かに付けて、事あるごとにケチをつけています。ちなみに、クライフはラポルタ支持派でしたが、2009 年の総会の決定を受けて、ラポルタとは袂を分かち、ロセイとは元々、犬猿の仲だったようです。2010 年の会長選挙でも、クライフはロセイでなく、他の候補者を支持していたと記憶しています。深くコメントはしませんが、クライフは確かに、スーパースターであり、名監督ですが、現在では、「商売人」です。彼がなぜ、プレーヤーとしてアヤックスからバル

サへ移籍したのか、また、バルサをいわば追放されたのに、なぜ監督として戻ってきたのかを、機会があればご説明します。この話も長くなります。次のスライドに移ります。

５．バルサ憲章より－理事会

このスライドは理事会に関する条文です。

Section 3.BOARD OF DIRECTORS
Article 28.nature and function
The Board of Directors is the collegiate governing body of the Club with the role of promoting and directing social activities, through acts of administration, management, representation, disposition and execution as required to comply with the aims of FC Barcelona, the decisions of the general Assembly, and what is detailed in these Statutes.

第3章　理事会
28条　理事会はクラブ管理統括機関である。FCバルセロナの目的、通常総会での決定、本定款に詳細に記載されている事項を運営、管理、代行、処理、執行することにより、クラブの社会的活動を促進及び、指揮する責任を負う。

12

続いて、権限です。バルサの理事会が非常に大きな権限を憲章によって与えられているのが分かります。

Article 29.competences
Generally, the competences of the Board of Directors are all decisions and actions related to the governance of the Club that are not conferred by these Statutes upon the General Assembly.
For illustrative purposes, but not limited to these, the following are specific competences of the Board of Directors:

Article 29.権限
一般的に**総会へ本定款により付与されていないクラブの運営に関するすべての決定及び、行動に関する権限を有する。**
権限を執行するために、理事会の特定の権限を以下に例示するが、権限はそれに限定されるものではない。

13

「referendum（全会員投票）」にいかに重要な価値を置いているか、分かります。

FCバルセロナ憲章にreferendum(全会員投票)に関する条文・条項は見つからない。何よりも会員の意志を尊重し、理事会の決定を権威づけるために、referendum(全会員投票)が実施されるのではないかと考える。
(小池の論考)

Members authorise referendum on Camp Nou renovation/rebuild
WWW.FCBARCELONA.CAT
09/22/2012 20:11

Javier Faus noted that there are two options: remodel the stadium or build a new one. The first option would cost the Club 300 million euros, while the second wouldn't surpass the 600 million euro price tag
Antoni Freixa stated the the Board of Directors is adamant that Club members must be the ones to decide if the Camp Nou should be renovated

14

理事の義務・責任関して次のスライドで見ていきます。

Article 35.Liability of the members of the Board of Directors
The members of the Board of Directors are liable for their actions before the General Assembly.
They will also be jointly liable before members for any actions they may have adopted regarding the economic and financial area of the Club that contravene the provisions of this Statute and the regulations of Section 2of Chapter 3 of the Regulations for the internal operation and systems of Clubs as passed by Decree 145/1991 of June 17, of the Executive Council of the Government of Catalonia, excepting members of the Board of Directors that have voted against the agreement from which that liability arises.

第35条 理事会の理事の責任・義務
理事会の理事は総会に対し、自ら起こした行動に責任を負う。理事は全会員に対して、クラブの経済的、財政的な領域に関して採用した、いかなる行動にも責任を負う。その行動が、本定款に記載された条項、クラブの内部業務及び、システムに関する内部規則第3章第2部の規定に相反する行動を取った場合、全会員に対して責任を負う。(内部規則はカタロニア政府の執行機関によって議決された1991年5月17日付の法令145条に依拠する。)ただし、理事会の決定に反対をした理事は免責される。

以下、省略

15

FC バルセロナというクラブは、歴史を背負った因縁めいたクラブで、同じような権力闘争を、幾度となく繰り返しているのです。会員はそれを半ば楽しみ、半ば呆れて見ています。ラポルタ政権末期で起きた現象（不信任）が今回も起きる可能性は、十分にありました。ロセイがラポルタより賢いとすれば、不信任をソシオから突き付けられる危険性を察知し、会長の首を差出し回避。歴史的偉業（カンプノウの改修）を「referendum（全会員投票）」に諮ったことではないでしょうか。ラポルタは「政治家」でしたが、ロセイは、権力の座にしがみつかない「ビジネスマン」だと私は思うのです。

第35条の続き・・・
The legal requirement of constituting bank guarantees to respond for the financial liability that could affect the Board of Directors is complemented by those affected in the form and by the conditions that are established from time to time by current legal provisions.

第35条の続き
法律的要請である、理事会に影響を及ぼす財務上の賠償責任に対する銀行保証を設定することは、現在の法律条項によって、必要に応じて形式および条件を設定し、補足される。

→理事が自らの過失でクラブに財務上の損失を与えた場合、法律の範囲内で賠償責任を負ってもらうよ！「タダでは逃がさないよ！」(ただし、カタルーニャの法律の範囲以内で)という解釈でよいのかなと思います。
簡単に言えば、「理事の(銀行)資産に対して、有限責任の範囲以内で担保を取りますよ」と憲章で確認しているのかなと思います。

→前会長ラポルタは、現クラブ理事会より訴追されています。同様に、ロセイもネイマールに関する不透明な契約(総会での虚偽報告及び、虚偽の会計報告等)により、現理事会または会員から起訴される可能性がかなり高い。
＊歴史は繰り返される。ロセイはラポルタと同じ轍を踏んでしまったのです。

16

６．カンプノウの建設・改修をめぐって

今回のラポルタの辞任騒動はネイマールの移籍問題と見るマスコミが多いのですが、私はそれだけなく「カンプノウ」の改修の動きと連動していると考えています。

それではそもそも「カンプノウ改修」の議論はいつから始まったか。昨年の 12 月、ネットの記事で簡単に載せられ、あたかもつい最近、降って湧いて起きたような問題に思われますが、ずっと以前から懸念されていた問題です。ここにも、また、ラポルタとロセイの確執が深く関わっていることを、次のスライドを使ってご説明いたします。

その前に、カンプノウの前のスタジアム、「レス・コルツ」をお見せします。こんなスタジアムでした。「レス・コルツ」から新スタジアムに建設に大きく舵を取った原因となったのは、バルサの 20 世紀の最高の外国人プレーヤー「ラディスラオ・クバラ」（ハンガリー人）です。彼の素晴らしいプレーを見せるには、「レス・コルツ」では手狭になり、新スタジアムを建設したのです。クバラのプレーが分かるビデオを見つけたので、スライドのあと、お見せします。

これが 1950 年代の「レス・コルツ」です。（このあと、クバラのビデオを流す。）

17

いかがでしたか。1960 年代始めにも、こんなおしゃれな、華麗なプレーをするプレーヤーが存在したのですね。ディ・ステファノ（＊レアルマドリッドの歴史的プレーヤー）の移籍問題など、クバラを通じて、バルサとマドリの問題も話す必要が本来、あると思うのですが、本日の発表テーマとかけ離れるので、やめておきます。クバラという人は、非常に面白い人で、これだけの名プレーヤーでありながら、ハンガリー代表歴が確か、2・3 回しかなかったと記憶しています。本当の自由人で、ハンガリーから自由を求めて、当時のチェコスロバキアに亡命し、本国で家族が迫害に近い扱いを受け、一度は強制帰国。しかし自由を求め、再びオーストリア行きの難民輸送用のトラックに忍び込み、亡命。やっとのことでバルセロナにたどり着きます。この人に私は非常に興味があります。クバラと言う人も、バルサがフランコ政権下で屈辱的な扱いを受けていたのと同様、冷戦下、人の移動が自由でなかった時代、自由を希求した人物です。歴史や運命を背負った人物です。私はバルサの戦術、プレーも好きですが、それ以上にバルサというクラブが「運命」と「歴史」を背負い、屈辱に耐え忍び、今の栄冠を勝ち取ったそのプロセスに魅かれています。ちょっとへそ曲がりな「日本人ソシオ」です。

カンプ・ノウ建設の貴重なビデオをバルセロナの友人から送ってもらったので、ご覧ください。（バルセロナのテレビ局「ＴＶ３」のカンプ・ノウ建設のビデオが流れる。）

いかがでしたか？　カンプ・ノウが建設されたラス・コルツという地域は、今と違い全くの田舎。田園風景がスタジアム周辺にあったのがよく分かります。50 年以上の歳月の流れを感じます。

バルサの新築・改修問題ですが、そもそもは 2007 年 9 月に FC バルセロナ 50 周年記念事業の一環として、理事会より発表されました。この件と、今年の 1 月 20 日の改修案を関連させているマスコミの発表はほとんどないと思います。紙面などのスペースの関係もあるのでしょうが、日本のマスコミの取材力がいかに浅いものかを如実に表す一例だと思います。これが現地の新聞だと、何面にもわた

って報道されるのです。芸能人のスキャンダル・ネタもいいですが、健全なスポーツ文化の形成に寄与するよう、スポーツ新聞を始めとするマスコミには、生意気ですが、頑張って頂きたいものです。

さて、2007 年に理事会から発表された改修案がなぜ実施されなかったのか。案では 2009 年には着工し、今頃には完成していたはずでした。この案がラポルタ政権下でペンディングされ、ロセイ政権下で廃案になったのは「リーマン・ショック」の影響です。

ノーマン・フォスター卿によるカンプノウのリノベーション案①
（2007年9月24日発表案）

18

ラポルタ政権下で、改修案のコンペが実施されました。そのコンペで採択されたのが、次のスライドでお見せする、イギリス人建築家「ノーマン・フォスター卿」の案です。フォスターという人は、「Sir」の称号を持つ建築家です。高名な建築家らしく、ウェンブリー・スタジアムの改修も手掛けています。来日した経験もあり、旺文社の南館の建設も手掛けました。建築界のノーベル賞と言われる「プリツカー賞」も受賞しています。それほど高名な建築家です。

ノーマン・フォスター卿によるカンプノウのリノベーション案②
（2007年9月24日発表案）

19

私は今まで、カンプノウの改修と言わずに、新築・改修問題と申し上げてきました。ここに今回のロセイ辞任に関する 1 つのキーワードがあるのです。実はロセイが拘っていたのは「改修」ではなく、「新築」です。昨年、理事会から出された案は、「新築案」と「改修案」です。新築には 6 億ユーロ、改修には 3 億ユーロ掛かると、提示しました。おまけに、「改修では、カンプノウで試合ができない時期が発生する。その時、どこで試合を行うのか」と、いかにも「新築案」に誘導するような記者会見を、ロセイをはじめ理事たちは繰り返しています。私ははじめから「新築ありき」で、ロセイは考えていたと思います。新築のための用地をカンプノウが面する「ディアゴナル通り」沿いのバルセロナ大学の用地内に確保していました。しかし、新築には莫大な資金が必要になる。ネイマールの移籍問題でソシオから訴えられる。ロセイは窮地に追い込まれ、「新築案」を断念し、「改修案」に譲歩したのではないかと私は推察します。

1 月 20 日の理事会では、そのこともきっと議論されていたに違いない。ロセイに新築案から改修案に譲歩を迫った理事がいるのではないか。私の推察の証左として、1 つの事例を挙げます。昨年、理

事会から発表されたの「改修案」では、総工費が 3 億ユーロ、20 日発表された「改修案」では、6 億ユーロにすり替わっている。明らかに矛盾しています。ロセイが何としても、カンプノウ改修に拘り、バルサの歴史に名を刻むことに執念を燃やしていたかが、手に取るように分かります。

次のスライドでは、1 月 20 日発表された理事会をお見せします。

緊急理事会によって決定されたリノベーション案①
（2014年年1月20日発表案）

20

緊急理事会によって決定されたリノベーション案②
（2014年年1月20日発表案）

21

3 枚目のスライドをよくご覧下さい。「カタール」の文字が見えませんか？　昨年までは「トルコ航空」がスポンサーに入っていましたが、この新スタジアムでは、「カタール航空」にとって代わっているのが、ご理解頂けると思います。冒頭、田村さんが触れられていましたが、ロセイはブラジルとの関係だけでなく、カタールとの関係を構築したのでしょう。果たしていくらのスポンサー契約を結んだのか。私のような、日本の末端ソシオにも、カタール・マネーの影がちらついているのが分かります。日本の新スタジアム建設にかかる費用が 1,000 億円以上。カンプノウが改修とはいえ、当初の 3 億ユーロ（日本円で約 400 億円）で済むわけがない。カタールのオイル・マネーを当て込んでいるのは確かでしょう。これでは、バルサがどこの国のクラブか分からない。クライフが常々、いちゃもんをつけるのも頷けます。ソシオの 1 人としては、年会費が上がらないことを祈ります。

緊急理事会によって決定されたリノベーション案③
（2014年年1月20日発表案）
予算は6億ユーロ。果たして、この額で済むのでしょうか？どこが貸してくれるの？ソシオへしわ寄せがくるのでは？年会費が上がるかも？

22

ちょっとここで、カンプノウから一度離れ、スペインの別のスタジアムに関する話題に移ります。

次にお見せするスタジアムがどこか、分かる方はいませんか？（参加者の誰も分からず）

ではこれでどうでしょう。ヒントは、100 周年を迎えた歴史あるスタジアムです。（2 番目のスライドでも誰も分からず。）では最後にこれでは。（最後のヒントでも・・・）

この写真はスペインのどのクラブスタジアムでしょうか？

23

ヒント：La Catedralの名前で親しまれたスタジアムは？（昨年、建設100周年）

24

答えはアスレチック・ビルバオの本拠地「サン・マメス・バリア」でした。

今年 4 月、ビルバオに行きました。スペインはご存知の通り、経済危機に現在でも見舞われていますが、ビルバオの経済は元気です。スペイン全体の失業率は 25%を超えますが（若者は 50%以上と言われる）、バスクは 10%前後です（＊間違っていたらすみません）。今回の新スタジアム建築に関しても 2 億ユーロの 90%が、ｂｂｋというバスクの銀行と自治体が負担し、アスレチック・ビルバオの財政状況に、新スタジアム建設は大して深刻な影響を及ぼさないようです（＊スペインのチーム、バレンシアやアトレチコ・マドリーなどは 10 年以上、新スタジアム建設が棚上げにされている。スタジアムの老朽化は醜いばかりだ）。

答え：サン・マメス・バリア（San Mames Barria）でした。
総工費、約2億ユーロ。bbk（ビルバオ・ビスカヤ貯蓄銀行）と行政（バスク自治州、ビスカヤ県政府などが約90%が負担。財政的な問題はなし。

25

バルサにとっても、カンプノウの改修は財政に相当な影響を及ぼすか、予測不可能です。いかに、当てになる「カタール・マネー」が後ろ盾として控えていても、いつ何時、世界の経済状況によってバルサから離れていくか、分かりません。そこで、ネイマールの移籍問題と絡めて、次のような「ドアホな」仮説を立てました。1 人のおバカなソシオが考えたことですから、月例会後はどうぞ、水に流して頂いて結構です。その仮説とは・・・（次のスライドに移ります。）

■バルサのカンプノウの改修は果たして６億ユーロ（日本円で約900億）で本当に済むのか？

■済む訳がありません！1957年にカンプノウを建設した際に、当初予算の3倍の費用がかかりました。当然でしょ。サグラダ・ファミリアを見れば分かります！

■予算オーバーが見込まれる総工費を捻出するために、ロセイには何か秘策があったのでしょうか？歴史は繰り返すです！（あくまで小池の仮説）

■なぜ、ロセイは１００億以上の金を出して、ネイマールを獲得したのでしょうか？

26

ズバリ！「数年後、メッシを売って、新スタジアム建設費用を補てんしよう」と、ロセイは考えていたのではないか？（あくまでも仮説）

メッシを売って、その後釜にネイマールを据えよう！（by　ロセイ　小池）

その証左として、**ルイス・スアレス**というバルサにはレジェンドがいた。1960年にはスペイン出身選手として初めてバロンドールに選出。高騰したカンプノウ建設費を捻出するためインテルに移籍。（グランデ・インテルの中心選手）スペイン史上最高の選手のひとりとみなされているが、彼はカタルーニャ人ではない。

27

「歴史は繰り返す」です。スアレスという、メッシほどではないにせよ、スペイン人で初めて「バロンドール」を獲得した、スペインきっての名選手。「カンプノウ」建築費が高騰したため、1964 年バルサはインテルにスアレスを売却しています。スアレスはガリシア人です。まだ、覚えていらっしゃいますよね。バルサはカタルーニャのクラブで、カタルーニャに忠誠を尽くさねばならないこと・・・

８．FC バルセロナからの温かいメッセージ－東日本大震災に寄せて

最後に、FC バルセロナが取り組んでいる平和活動、特に東日本大震災の際に日本へ寄せてくれた温かいメッセージをご紹介します。日本人は世界の方々やバルサから寄せられた恩義を決して忘れてはいけないと思います。

30

スライドを 3 枚ご覧ください。

1 枚目は 2011 年 3 月 11 日、東日本大震災当日に FC バルセロナの公式 HP に掲載されたものです。この子供たちは福岡のスクールの子供たちですね。福岡は今回の地震の被害とは直接関係ないのですが、いち早くメッセージを寄せてくれています。

“Barca concerned about Japan.”
バルサは日本のことを心配している。

日本に公式なファン組織（ペーニャ）が 2 つありますが、そのうちの 1 つのペーニャの代表の方や福岡のスクールのテクニカル・ディレクター（TD）のイバンと連絡をすぐに取ったことなどが他のページにアップされていました。

次のスライドは、地震があった 2 日後に行われたバルサ対セビージャの試合前の光景です。場所はセビージャのホームラモン・デ・サンチェス・ピスファン。私が最も好きな絵の 1 つです。WOWOW でこの光景を見たとき、涙が止まりませんでした。

31

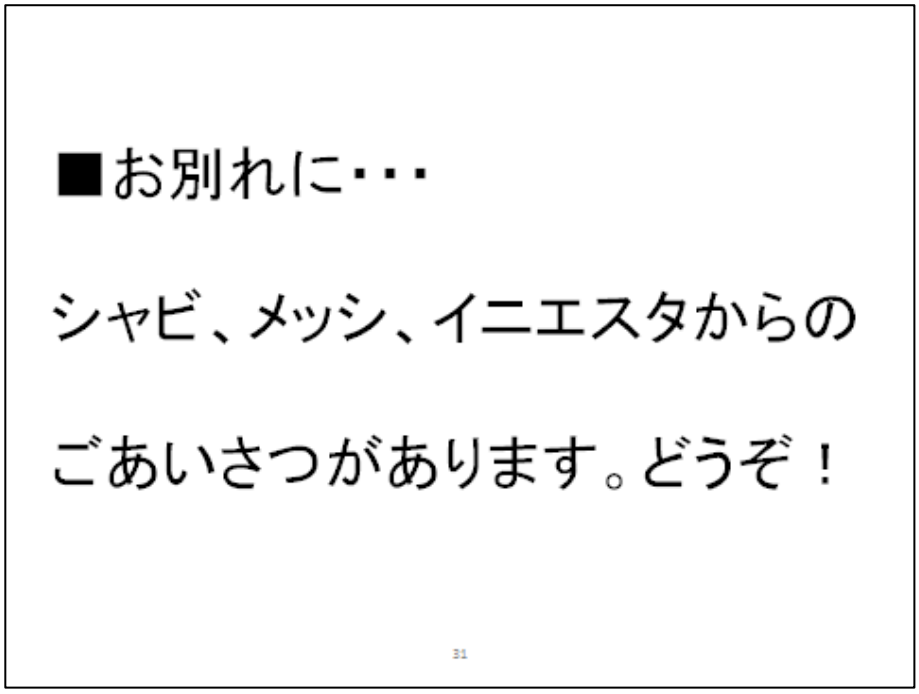
Animo Japon ! Estamos contigo !

頑張れ、日本！僕らは君と共にいる！

セビージャは実は、私がファンとしてバルサより好きなチームで、このチームのファンは特に熱い！まさに情熱の国、スペインを象徴するクラブです。街場のタブラオ（フラメンコの劇場）も素晴らしいです。街として、バルセロナよりセビリアの方が魅力的です。

最後は、福島の子どもたちがバルサに招かれた時のものです。恐らく、ユニセフを通じての招待だと思います。場所はバルサの練習場、ジョアン・ガンペール・サンジョアン・デスピ。メッシやセスクなどカンテラ出身の選手がいます。今は移籍したフォンタスという選手も見えます。(最後列一番左。ピントの右横)

いかがでしたでしょうか。「バルサ憲章（定款）から見たバルサの本当のすごさ」と題して、発表させて頂きました。まだまだ話したいことは山ほどあるのですが、時間が来ましたので、私からの発表は以上にさせて頂きます。



（バルサの中心選手のビデオが流れる。シャビを中心に、「バルサは日本の皆さんを応援しています！」）

ご清聴ありがとうございました。

＜ディスカッション＞

中塚：8 時半くらいまでここでやりましょう。質問があればどうぞ。

田村：最初の「natural person」（憲章第 1 条）の「natural」には「地元のとか、土着の」という意味が

あるようです。そちらの意味かと思います。

小池：ありがとうございます。

■胸スポンサーと会長

中塚：バルセロナって長いこと、ユニフォームの胸にスポンサーを付けないクラブでしたよね。それが最初はユニセフで、今はカタール航空ですよね。そうなったのは誰が会長の時からですか？

小池：ユニセフはラポルタ会長の時です。あれはユニセフがバルサにスポンサー・フィーを払っているのではなくて、バルサがユニセフの許諾を得て、胸にネームやロゴを入れているんですね。2009年のとき、総会で新しい規約を入れました。理事会の判断で「胸にスポンサーを入れることができる」という条項です。ラポルタの時です。ラポルタがその後退任。ロセイの時に「カタール財団」、現在は「カタール航空」のネームとロゴを入れています。それに対して、クライフは今でも猛反対して、「バルサの、カタルーニャの魂を金で売った」と、今でも何かにつけて、現実行部にイチャモンを付けています。相当、怒っています。

田村：それでクライフとラポルタの仲が悪くなった。

小池：クライフは経済人です。

田村：さっきの話で言うと、ロセイはナイキのブラジル（注：ナイキの全南米地区担当スポーツマーケッティングディレクターとしてブラジルに在住）だったじゃないですか。それで、ブラジルの会長がティシェイラの時に、ブラジル代表との契約をし、ブラジル代表が1試合、試合をするときにティシェイラのポケットにお金が入ってくる。それが今、ブラジルで今、問題になっているんですね。ティシェイラの場合はそれだけじゃないんだけれど・・・ロセイにも彼のマネージメント会社を通じてお金が入ってくる。自分が付き合っているマネージメント会社にお金が入ってくる。そのことで彼は今、追及を受けている。その後にカタール財団が入ってくる。きな臭いですよね。

小池：カタール航空の前のスポンサーが「トルコ航空」です。う～ん、やはりきっとロセイとカタールの間に「何か」があるんでしょうね。

田村：ロセイをどういう人か知らなかったんですけれど、インタビュー記事を見たり、「メッシは絶対に売らない」と言っているようですけれど、今日の話を伺っていると、やはりきな臭さを感じます。

小池：私もメッシは売らないと信じたいですが、過去がありますから。

田村：ラポルタが失脚して、カタールとの関係がどうなるか、スタジアムの改修建設費が600億ですか・・・。これから、これからどうなるか分からないですよね。

小池：そうですね。4月5日・6日に会員投票がありますから、その結果がバルサの今後を左右すると思います。2016年の選挙にラポルタが出るという話も出ています。

田村：そうですね。これ「レキップ」の記事なんですけど、レキップにもそう書いてあって、今回の

件にしてもラポルタ派のある理事がちくって、ラポルタが復権を狙っていると書いてありますね。

小池：バルサのソシオにはそんな人間がたくさんいて、やはり、きな臭いでしょね。

■バルサの会長職とは

牛木：どうして、みんな、バルサの会長になりたいんですか？そんな人がたくさんいるんでしょう？

小池：バルサは歴史や運命を背負っているクラブですから・・・

牛木：それは名誉ということですか。利権のためじゃないんですか？

小池：ロセイはそうかもしれません。ラポルタは政治家への転身を狙っていた人物です。頓挫しましたが。

牛木：やはり、利権でしょう。

田村：バルサの会長というのは、カタルーニャの大統領くらいの地位なんですか？

小池：そうですね。立候補者のプロフィール、スローガン、公約が公告のような形で新聞に載ります。イメージとしては、都知事選まではいきませんが、県知事選・区長選などの選挙をイメージして頂けると良いかと思います。バルセロナの人口が約 300 万人ですから、会長選挙の時は、バルセロナ全体がその話題で持ちきりになると・・・バルサが好きなではない人間もいるでしょうが・・・

牛木：僕は単なる名誉だと考えられないけれどね。今、ブラジルでワールドカップのためのスタジアム建設が行われているけれど、クリチーバという街があって、スタジアムの建設が遅れていて、間に合わないかもしれないと言われています。それはクリチーバの会長が、州政府と国から補助金を出せと工事を促進するため言い、それをポケットに入れている。それでもっと出せと言い、工事が遅れている。ブラジルではそういうことが行われているわけですよ。スペインでもそうかなと思って言ったわけです。単に名誉のためだけに、個人の能力を使い、苦労するとは僕には思えない。

田村：ブラジルのスタジアム建設が遅れているのは、ポケットに入れてしまうことが多いですよね。スペインのスタジアム建設が遅れているのはどうしてなんですか？ポケットに入れてしまうわけではないでしょうが・・・

小池：バレンシアというクラブは、コロコロ会長が変わります。10 年前からメスタージャの新スタジアム建設がクラブから発表され続けています。もちろん、リーマン・ショックの影響がまだ、スペイン全体に色濃く残っていますが。ビルバオというクラブは、100 周年記念にスタジアムを建設しました。柿落としには間に合わず、ゴール裏はまだ建設中という、いかにもスペインらしいですが。ちなみにレアル・マドリーの会長は土建屋です。

■スペインサッカーとテレビ放送権

牛木：今日話題に上らなかったけれど、スペインではテレビの放映権料はどうなっているんですか？

小池：今、各クラブが持っています。金額が高騰して問題になっています。

田村：あの、総額で 800 億から 900 億円（注：2009～12 年は国内放映権料が年間 5 億 4200 万ユーロ。これに海外放映権料が加わる）なんですけれど、その半分がレアルとバルサなんですよ。残りを他のクラブで分け合っています。上 2 つとその他となっていて、その偏りが問題になっています。この 2・3 年、成績にも反映されていて、バレンシアもそうですが、上 2 つのクラブに対抗できなくなっています。

小池：ラポルタの時に、テレビの放映権料に関わってきますが、ヨーロッパの強いクラブだけで、リーグ戦を行おうという構想がありました。マンチェスター・ユナイテッドやバイエルン・ミューヘンというチームです。放映権料の問題は、今、クラブの存亡と切っても切れないほど、切実な問題に発展していて、その解決策を見出せない状況ではないでしょか。

■会員種別と全員投票の仕組み

笹原：さっき話に出た会員の全員投票は行われるのですか？

小池：行われます。4 月 5 日・6 日に行われます。毎年春、スペインに行っていますが、今年こそ年度初めはちゃんと働こうと思って、ゴールデンウィークに移しました。そこで、4 月 5 日・6 日に会員投票が行われるという、理事会からの発表。また会員の権利を行使できず、今回も終わりそうです。

笹原：その場に行って、物理的に、紙に書いて投票するのですか？

小池：はい、そうです。カンプノウまたは、隣のミニ・エスタディオというサブ・スタジアムに投票所を設けて投票が行われるようです。

笹原：先ほどの話しでは、憲章に会員投票が明記されていないとのことでしたが、ルールもないということですか？例えば何票以上とか。

小池：過半数です。

笹原：それは投票数の過半数ですか？

小池：そうです。ただ、会員投票数の有効投票数の規定があって、全会員の１０％以上が投票しなければ、その投票は無効になります。

中塚：例えば 10 万人の会員がいれば、10%として 1 万以上の投票が必要と。１万人集めると・・・

田中：それは委任状もないのですか？行くか、行かないですか？

小池：委任状はありません。しかし、かなりの人間が投票に行くので、投票の有効性に関しては問題がありません。クラブ、フットボールに対する愛が日本とは違いますから。

中塚：ソシオというのは、今のサロンの話しで言うと、サロン会員ですよね。コア会員というのはどこにいるのですか？

小池：ソシオはみんな同じです。みんな理事になれる権利はありますし、総会に出る権利、つまり代議員になる権利があります。

笹原：代議員が総会に出られるのですよね？普通の人は出れない。

小池：そうです。

笹原：ソシオというのは推薦か何か分からないけれど、代議員になれる可能性はあるけれど、（総会での）投票はできない。

小池：できません。会長選挙はできますが。ただ、お金を払っているだけです。機関紙は送られてきますけれど。

田中：代議員と全会員と２つになっている。

牛木：ソシオの中から、delegate（代議員）が選べられて、delegate の中から理事に選ばれ、会長が選ばれる。会長選の選挙なんだ。

小池：会長の選挙というよりは、理事団を選ぶ選挙なんです。理事団の中から、会長が選ばれるという、分かりにくにシステムです。

■バルサの財政規模

名方：全体の売上はどれくらいあるのですか？

小池：500 億円と言われていますが、ラポルタが訴えられているように裏帳簿があると思われます。いちソシオの私には分かりません。毎年、約 10 億円ずつ程度、債務は減っているとロセイは言っています。

田村：（全体の債務は）3 分の 2 くらいは、減ったと（ロセイは）言っていますよね（注：正しくは 5 億ユーロから 2012 年までに約 3 億 6000 万ユーロに減少）。

名方：会長の給与はいくらなんですか？

小池：無報酬です。理事全員がそうです。

名方：無償なんだ。じゃあ、利権がありそうですね。

小池：冒頭、バルトメウ新会長の経歴の話をしましたが、ほとんどの理事が企業の経営者、役員であると推測されます。そうでないと、無償で務まりませんよね。まあ、見返りとして、利権を絡めてくるんでしょうが。

田中：テレビの放映権の話が出ましたが、ソシオは会費を払い、そのお金でクラブの経営が成り立つわけですよね。ソシオの会費だけで（バルサの）経営が成り立っていたのはいつまでですか？小池さんが入るより、はるか昔？

小池：詳しいことは分かりませんが、バルサにはヌネスという名物会長がいて、彼はバルセロナでも有数の実業家でした。恐らく彼が会長だった 80 年代には、ソシオの会費だけクラブの経営を成り立たせるというシステムは、崩壊していると思います。ユニフォームの胸にスポンサーは入っていませんが。実業家ですから、いろいろな所からお金を引っ張り出してきたのだろうと。そのヌネスに不信任を突きつけたのが、ラポルタンなんです。ロセイの件もそうですが、バルサというクラブはそんなことを繰り返しているのです。ヌネスとお金にまつわる話はいろいろあったようですが、彼が会長の時代に下部組織（カンテラ）ができたんです。私にとって、ヌネスは田沼意次のイメージです。彼のことをひどくいう人がいますが、彼がいなければ、バルサのカンテラは発展せず、今のバルサの栄華もなかったと思います。

■法人としてのバルサのすがた

笹原：バルサは団体として、どういう法人なんですか？

小池：恐らく世界最大のスポーツＮＰＯです。

牛木：いろいろ株式会社とかいろんな法人があるけれど、スペインの法律に基づいているのですか？

小池：そうです。スペインの法律に基づいて作られた法人です。

牛木：カタルーニャの法律ですか？スペイン（国家）の法律ですか？

小池：カタルーニャです。ですから、バルサはカタルーニャのクラブなんです。

牛木：カタルーニャですね。地方政府の法律なんですね。日本ではみんな同じ法律だけれど、スペインはカタルーニャやバスクなどが独立の州政府を持っている。その辺を確かめておかないと。

小池：バスクにビルバオというクラブがありますが、ビルバオはバルサとちょっと違っていて、生協（生活協同組合）のような組織らしいです。私はバルサより、ビルバオの組織構成に興味を持っています。バスクの経済が比較的好調なのも、どうやら生協的な法人が関わっているらしい。私のこれからのテーマです。ビルバオのスポンサーは bbk という銀行、リーガ・エスパニョーラのスポンサーもＢＢＶＡというバスクの銀行です。バスクは元気です。

斉藤：ソシオに対して、バルサは会計内容を積極的に情報公開しているのですか？

小池：総会に配られる資料だけです。あの棒グラフです。

斉藤：日本の企業の株主と同じように、ディテイルが分かると思っていたんだけれど。

小池：そんなことをしたら、日本の企業の多くは潰れますよ。バルサも同じです。ソシオには本当の財務状況は分かりません。ベールに包まれています。だから、今になってラポルタ政権下の裏帳簿が出てきているのです。バルサの組織図を調べましたが、手に入れることはできませんでした。私見ですが、国連の組織に似ているのかなと思います。最高決定機関である総会があって、その周囲に軍縮委員会、経済理事会など。バルサの組織もそれ近いのかなと。規約委員会、経済委員会などいろいろあって、全体像が実は掴めていません。

中塚：事務局員もいると。

小池：そうです。かつて、日本人スタッフもいました。2004 年の JAPAN ツアーにもバルサの選手と一緒に日本に来ています。慶応のソッカー部出身で、確か今、日本サッカー協会に努めているはずです。GHQ ミッション直轄の仕事をしているという話は聞きました。

野口：いま、代表チームに帯同しています。

■おわりに

中塚：話は尽きないので続きはルンでするとして、ここで帰らないといけない田中さんから一言。

田中：今日の話を聞いていると、日本でもソシオ制度とか言っている J のクラブがありますが、バルサの歴史 100 年と比べると、おいそれと日本で J のソシオですと言ってられないなと。バルサがユニセフにお金を出していた（スポンサードしていた）のは知っていました。ただ、今日の利権にまつわる話を聞いて、バルサが美徳に包まれたクラブであるというイメージは、木っ端微塵に吹っ飛びました。

中塚：最後に小池さんからどうぞ。

小池：発表の中でも触れましたが、バルサからは世界に先がけて、いち早く震災に対する応援のメッセージが届けられました。バルセロナに行くと言われるんです。「日本は大丈夫か？」と。「福島」という地名も現地の人間は知っています。東京にいると、東京の人間は震災があったことを、もうすでに忘れてしまっているように思えてなりません。スポーツを愛する者として、フットボールを愛する者として、バルサのように、日本に対して温かい支援をしてくれたクラブがあることを、日本人は忘れてはいけないと思います。本日はありがとうございました。

（続きは「ルン」で…）